

# 隠岐の島町立西郷中学校（令和元・2年度）

## 1 学校教育目標

「創造性に富み、感性豊かで、共にたくましく生きていく生徒の育成」

## 2 めざす生徒像

- 自ら学ぶ意欲と態度を持ち、確かな学力を身につける生徒
- 自らより良い生き方を考えると共に、思いやりのある心を持つ生徒
- たくましい心と体を持ち、粘り強く取り組む生徒

## 3 めざす学校像

- 生徒が愛する学校・・・自己存在感 / 正義の集団 / 授業・行事の充実
- 保護者が信頼する学校・・・受容と共有 / 危機管理の徹底 / フォローの充実
- 教職員が誇れる学校・・・協働 / 個々の資質の向上 / 組織力の向上
- 地域を明るくする学校・・・挨拶 / 礼儀・マナーの向上 / 地域への貢献

## 4 学校経営の基本理念

- 人権・同和教育及び特別支援教育、生徒指導の理念を基盤とする。
- 生徒を愛し、生徒の最善の利益を保障する学校（教職員組織）を目指す。

## 5 学校経営の重点

～キーワードは『自立』～

### (1) 学力アップ

- ①個々を伸ばす授業作り
- ②自己学習力の向上

### (2) ハートアップ

- ①温かく規律ある集団作り
- ②挨拶&礼儀・マナーの向上

### (3) 体力アップ

- ①体力作りの活性化
- ②自己管理能力の向上

#### <対応の基本姿勢>

- ◆信じる、向き合う、徹底的に関わる。
- ◆指導はその場で行い、連携して対応する。
- ◆個や集団における自立の段階を見極めて指導する。

#### <対応方法の留意点>

- 徹底的に関わり、良さを伸ばし、課題を解決する。
- 他者に配慮し、主体的に活動する場面を設定する。
- 目標を決め、困難を乗り越える経験を大切にする。
- 自己や集団の行為を振り返る時間を設定する。

- ⇒ 教職員が理想の集団として、モデルを示す。
- ⇒ 本質を理解し、的確かつ迅速な対応を目指す。

# 研究の概要

## I 研究主題

自他を認め、共に学び、主体的に活動する生徒の育成

## II 研究計画

### 1 主題設定の理由

#### (1) 地域・生徒の実態から

本校は隠岐諸島の玄関口である西郷港に近く、校区には多くの事業所があり、職場体験学習など地域をフィールドとした体験活動を実施しやすい環境にある。近隣には保育所、福祉施設等があり、交流活動も盛んである。また、都市部に比べて豊かな自然環境に恵まれた地域でありながら、生徒を取り巻く生活様式や家庭や子どもの抱える課題などは、都市部と大きな違いはない。

生徒数は現在150名であり、各学年2クラス、特別支援学級が2クラス、計8クラスである。校区にある小学校は1校のみであり、ほとんどの生徒は小学校から中学校までを共に過ごすことになるが、近年は部活動等の事情で校区外の小学校から入学する生徒も増えてきている。素直で穏やかな生徒が多く、落ち着いた学校生活を送っている。学校行事や部活動に熱心に取り組み、仲間と協力しながら懸命に活動する姿も見られる。

また、隠岐の島ウルトラマラソンや岬ふれあい祭りなど、町や福祉施設のイベントに多くの生徒がボランティアとして参加するなど、地域への貢献意欲も高まってきている。一方、自己中心的な言動をとる生徒も見受けられ、集団活動に影響する場もある。加えて、そのような課題に気づきながらも解決に向けて生徒自ら問題提起することがあまり見られない。このことから、自分の言動が他者に与える影響を考え、どのような言動が正しいのか判断したうえで行動するための思考力、判断力、実行力等が課題としてあげられる。

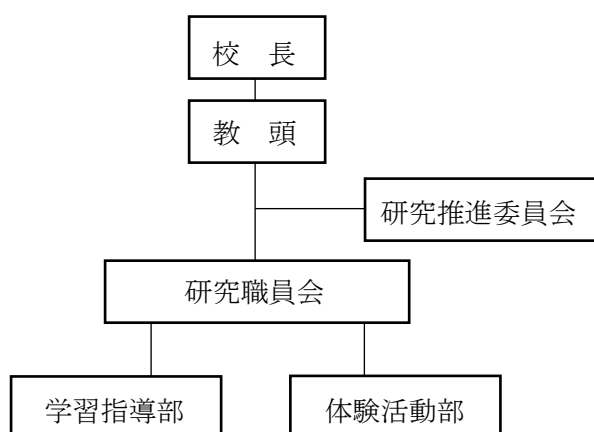
#### (2) 学校教育目標の実現等に向けた取組から

本校は「創造性に富み、感性豊かで、共にたくましく生きていく生徒の育成」を学校教育目標に掲げている。学校教育目標を受けた本校の学校経営方針は「自立」をキーワードとして、積極的な生徒指導を柱に、生徒の自己管理能力の育成を目指した取組を推進している。そのために「徹底的に関わり、良さを伸ばし、課題を解決する」「他者に配慮しながら、生徒が主体的に活動する場面を設定する」「目標を決め、困難を共に乗り越える経験を大切にする」「自己や集団の行為を振り返る時間を設定する」ことを全教職員で共通理解し、教育活動の内容を工夫している。

また、本校では、生徒会を中心に学級を単位とした月目標を設定する取組を行っている。学級で目標を決め、目標達成のための活動を学級全員が意識して実践する過程を通して、互いに認め合い、学び合うとともに、主体性を養うことができるであろうと考え、取り組んでいる。月目標の成果は生徒会朝礼で発表し、全校で成果を共有するとともに、発表を通して表現力の向上を図っている。また、生徒会主催の人権集会を毎年行っており、生徒が主体となって人権について考える取組を行っている。

実践の成果と課題を整理し、進路保障の視点から授業改善に取り組むとともに、特別活動を中心とした生徒主体の活動において互いに認め合い、学び合うことの大切さを実感させ、人権感覚の高揚及び課題解決に向けた実践を通して思考力・判断力・実践力の向上を図りたい。

## 2 研究の校内推進体制



## 3 研究仮説

生徒の現状について、平成30年度以降の学校評価を見ると、「学校へ行くのは楽しい」「学級には何でも話せる雰囲気がある」の項目については肯定的回答が8割～9割と高く、一方で、「将来の生き方や進路・進学先について考える機会がある」の項目については肯定的回答が5割～6割程度となっている。

アンケートQ1においても学校評価と同様に見ていくと、約7割の生徒が学校生活満足群にプロットされているが、「クラスの中で存在感があると思う」「クラスの活動に貢献していると思う」「将来に夢や希望を持っている」の項目については肯定的回答が5割～6割程度となっている。

学校評価やアンケートQ1から本校生徒の傾向として、集団活動の中で役割を果たしている自分に自信が持てなかったり、役割の意義を理解できないまま取り組んでいたりする受け身的な様子が見られる。また、学習や人間関係の課題に対して解決方法を主体的に考えようとする態度や解決を図ろうとする意欲にやや弱い面が見られる。主体的に課題解決を図るための思考力・判断力・実践力に加え、共に活動する中で自他を認め合う人間関係の構築が必要である。

進路保障の視点から授業改善に取り組み、学級活動や生徒会活動を中心とした生徒主体の活動における実践を工夫することで、思考力・判断力・実践力の向上を図ることができるとともに、互いに認め合い、学び合うことの大切さを実感とともに理解し、課題解決に向けて主体的に活動する生徒を育成できると考える。さらに学校内外の様々な他者との関わりの中で人権感覚を磨くことで、将来をたくましく切り拓いていこうとする意欲や態度の基盤を養っていくことができると考える。

上記を踏まえて、本校では以下の2つの仮説を設定し、研究主題「自他を認め、共に学び、主体的に活動する生徒の育成」をめざして研究を推進することとした。

### (1) 授業づくり

学ぶことへの興味や関心を大切にしたい課題を設定し、共同的な活動や対話を通して課題解決を図る授業の展開を工夫すれば、共に学ぶ意欲を持ち、自ら考え表現できる生徒が育つであろう。

### (2) 集団活動づくり

課題を共有し、協働する活動の充実を図り、振り返りの方法や場を工夫すれば、互いを認め合い、自ら考え表現できる生徒が育つであろう。

## 4 研究内容

### (1) 共に学ぶ意欲を持ち、自ら考え表現できる生徒の育成をめざした授業づくり。

- 学ぶことへの興味・関心を大切にした課題設定の工夫
  - ・必然性のある課題を設定し、生徒の学ぶ意欲を引き出す。
  - ・生徒の実態を把握し、個別及び集団で達成可能な課題を段階的に設定する。
- 共同的な活動や対話を通した課題解決学習の実施と授業づくり
  - ・グループやペアなど共同的な集団の活用方法を工夫し、学びを広げ、深化させる。
  - ・全教職員で協働し、対話的または問題解決的な道徳の授業づくりに取り組む。

### (2) 互いを認め合い、自ら考え表現できる生徒の育成をめざした集団活動づくり。

- 月目標の取組の充実
  - ・リーダーを中心として、生徒による主体的な話し合い活動を工夫する。
  - ・学級代表として全校の前で発表や振り返りを行う機会を定期的に設定する。
- 課題を共有し、協働する活動の充実
  - ・学校行事や生徒会活動の取組過程を重視して、成果と課題を全校で共有する。
  - ・活動を通して見える自他のよさに注目させ、振り返りを通して認め合える場を設定する。

## 5 検証・評価

検証・評価は、上記の取組に沿って、以下の2点について教職員による協議・観察等の観察法や各種アンケートによる質問紙法、生徒の意見や感想等の記述を分析することで行う。また、本校の成果や課題については、校報等での紹介や授業公開日等での公開、授業研究会への参加促進や研究資料等の配布、教育研究会の部会等で他校への普及・啓発を図る。

### (1) 自ら考え、決定・行動し、表現できる生徒の育成が見込まれる。

- ・研究授業等での授業実践を行い、研究協議や生徒観察、振り返りの記述、学校評価やアンケートQ U等から検証し評価する。

### (2) 互いを認め合い、人権意識の高い生徒の育成が見込まれる。

- ・特別活動の取り組みや教育相談等による支援を行い、研究協議や生徒観察、振り返りの記述、アンケートQ U等から検証し評価する。



### Ⅲ 研究の実際

#### (1) 「共に学ぶ意欲を持ち、自ら考え表現できる生徒の育成をめざした授業づくり」の実践例

##### 【2年生 社会科（地理的分野）】

###### < 単元名 >

「世界と日本の結び付き」

###### < 指導のポイント >

- ・既習事項を活用した発展的な内容になるため、生徒の実態に即した授業展開を心がけ、導入部分で既習事項の振り返りを行い、全体で共有してから活動に入ること、生徒の意欲の高まりや思考の深まりを図る。
- ・授業者が話す場面を減らし、生徒同士が話し合い、学び合える授業展開を意識する。そのために、効果的かつ生徒の実態に即した資料を複数用意する。自分たちで見つけたり、教え合ったり、深化させたりできるような資料を選定する。
- ・資料から言える事実を読み取り、それを根拠としてメリット・デメリットを論理的に表現する活動を行う。
- ・必然性のある課題を設定し、生徒の学ぶ意欲を引き出す。衣服の生産地やスーパーの外国の商品など身の回りの社会に目を向けることで課題に必然性を持たせる。

###### < 実践を終えて >

- ・マンガから見られるグローバル化を前時の授業で取り入れたことで、生徒はグローバル化を身近に感じ、本時の学習課題に取り組むことができた。
- ・個人では読み取れなかった資料を、グループ活動の中で確認し合う場面や生徒同士で教え合う場面が多くみられた。
- ・生徒の取り組む態度やグループ活動の様子から、日常生活に関わりのある学習課題は、生徒の興味・関心を高め、グループ活動は生徒の学びの深化に有効であった。

##### 【2年生 学級活動（進路）】

###### < 題材名 >

「職場体験から学んだことを伝え合おう」

###### < 指導のポイント >

- ・自分自身の職場体験の経験を振り返ったり伝えたりすることで話し合いや対話が深まり、主体的に学ぶきっかけを作る。
- ・「働く上で大切なことは何か」という問いを中心発問に設定する。あらかじめ付箋を用意しておき、思いつくものをどんどん記入し、グループの中で発表し合う。
- ・発表の仕方は各グループにまかせるが、必ずグループ内の全員が発表することと理由を添えて発表するというルールを設ける。
- ・グループ学習にランキングの手法を取り入れ、友達の様々な勤労観・職業観に触れることで、他者の考えに共感したり、対比したりすることを促し、自身の考えを深める。

###### < 実践を終えて >

- ・誰もが意見を言いやすいクラスの雰囲気づくりを日頃に行い、その上でグループ編成の工夫、本時の流れの視覚化、発問の工夫等、生徒が学び合いのできる環境を整えることの大切さを実感した。
- ・グループ学習では、友だちと意見を擦り合わせ、ランキングをつける中で活発な話し合いが行われた。
- ・友だちに説明したり、友だちの意見を聞いたり、自分自身の経験を振り返る中で、話し合いが深まり、「職場体験で学んだこと」がより明確になった。

## (2) 「互いを認め合い、自ら考え表現できる生徒の育成をめざした集団活動づくり」の実践例

### 【月目標の取組】

学力アップ、ハートアップ、体力アップの観点で、学級や自分自身を振り返り、課題を見つけ、その改善のために目標や具体的な取組を学級のみinnで考えて実践する創造的な活動を目指した。月目標の取組を行うことを通して、学級の絆を深め、互いに高め合う集団を目指している。

月目標の観点やテーマは、各学級の級長、副級長で組織された評議員会で、現在の全校の課題を話し合い、全校共通のテーマを決定した。そのテーマについて級長、副級長を中心に各学級での具体的な取組を話し合い、生徒会朝礼で各学級の取組を紹介し合った。1週間の実践後に中間振り返りで改善を図り、1週間さらに実践し各学級で全体振り返りを行った。各学級での取組の反省も、全校の場で発表し合う機会を設け、全校生徒が共有できるようにした。

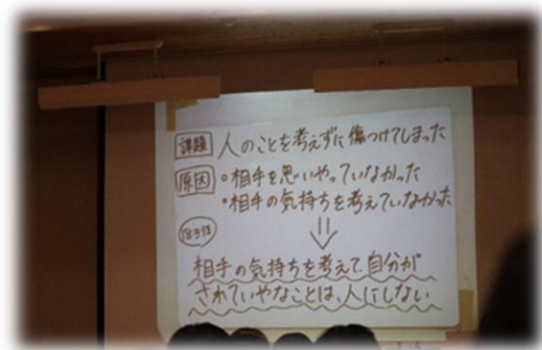


### 【人権集会の取組】

西郷中学校では、数年前から生徒会事務局を中心に人権集会に取り組んできた。本校の人権集会の特徴は企画から運営まですべてを生徒が中心に行う点である。令和元年度のテーマを「お互いを理解し、尊重し合うために～みんなが笑顔で過ごせるように～」と設定し、学校生活を振り返って、身近な課題を取り上げ、人権課題を見出し、課題解決に向けた話し合いを行った。全校で下記に示す内容で取り組んだ。

＜人権集会でのグループ協議の内容＞

- ①自分の生活を振り返って「イヤな思いをした体験、相手を傷つけてしまったこと、思いやりのない言動を見かけた」ことなどを発表し合う。
- ②「なぜそのようなことが起こるのか」その原因を考える。
- ③「このような課題をなくすためにはどのような心構えが必要か」という内容を話し合う。



## IV 研究の成果と課題

### (1) 共に学ぶ意欲を持ち、自ら考え表現できる生徒の育成をめざした授業づくり

#### 【成果】

- ・生徒の学ぶ意欲を引き出すための課題設定は、解決への必然性だけでなく、以下の要素も大切なことが分かった。
  - ①他教科や領域、学校行事とリンクしていること。
  - ②社会と関わりがあり、多様な見方や考え方を引き出せること。
  - ③ふるさとに関することや生徒にとって身近な事柄であること。
- ・生徒の実態に即した課題設定をすることで、生徒が意欲的に学習に取り組めるようになった。
- ・個人で課題を考える時間をしっかりと確保し、支援が必要な生徒には個別にサポートすることで個々の生徒が自分の考えを持てるようになった。
- ・グループ活動では、一部の生徒のみが活動するのではなく、生徒一人一人が自分の考えを持った上で、友達の考えの良さを取り入れたり、新たな考えを紹介したり、お互いに高め合える場面が増えた。特に効果的だったと思われる取り組みを以下に示す。
  - ①どうすればグループ活動の質を高められるか、部会を中心に検討を重ねたこと。
  - ②人任せではなく、生徒一人一人が考え活動する意識を高めるため、グループの中で生徒に役割を与え、責任を持たせたこと。
  - ③教員主導で各グループに必ずリーダーとなりうる生徒を配置し、生徒の資質や能力を考えながらグループのバランスを考えて基本の学習班をつくったこと。
  - ④学習のねらいや各教科の特性に応じて、グループの構成を変更可能とし、柔軟なものにしたこと。
  - ⑤全教職員で共通理解した上で、全校生徒に向けてグループ活動の意義や期待される効果について協議したこと。
  - ⑥各学級にグループ活動の心得を掲示して意識等の向上をはかったこと。
  - ⑦道徳科の授業づくりを全教職員で協働したことで、授業展開のポイントについての共通理解ができ、日々の授業で工夫がみられるようになったこと。

#### 【課題】

- ・今後の課題設定については、毎時間の授業の学習課題の積み重ねが、単元を貫く問いの足がかりとなるよう意識し工夫することが大切である。段階を踏んで学習課題を設定することを全教職員で共通理解していきたい。また、時間の確保について、特に授業にふるさとの教材を取り入れ、学習課題を設定する場合、教材研究や授業の準備に多くの時間が必要となる。生徒にどのような力をつけさせたいか、そのために効果的な学習課題は何かということを吟味し、厳選しながら時間を確保していく必要がある。
- ・今後のグループ活動としては、何のためにグループ活動をするのかというグループ学習のねらいをより明確化していく必要がある。以下の点に留意し、より効果的なグループ活動を目指していきたい。
  - ①自分の考えを確かにするために（確認）
  - ②自分の思考を広げるために（展開）
  - ③出た意見を一つにまとめるために（集約）
  - ④みんなで良いものを創り上げるために（創造）
  - ⑤いろいろな考えを出し合うために（共有）
  - ⑥よりよい人間関係を築くために（交流）

## (2) 互いを認め合い、自ら考え表現できる生徒の育成をめざした集団活動づくり

### 【成果】

- ・月目標の取組を各学期に1回実施した。学級の課題の共有、目標の設定、実践と振り返りのサイクルを生徒自らが行うことで、自然と互いを認め合ったり励まし合ったりする場面が見られるようになった。
- ・各学級のリーダーとなる生徒においては、学級をまとめ、様々な考えや意見を集約して形にする経験をする中で、リーダーシップが着実に向上した。他の生徒もリーダーとなる生徒を支え、着いていこうとするフォロワーシップが高まった。
- ・最初に決めた目標に対し、活動の途中で中間振り返りの時間を設定することで、取組に応じて目標を高くしたり低くしたりするなど、自分たちの力に合った目標設定をする力がついた。
- ・日々の学校生活において、生徒に積極的で主体的な行動や、友人の意見や考えを尊重し積極的に認めようとする行動が見られ、月目標の取組が、生徒の主体的な行動や互いを認め合う雰囲気大きく寄与したことを実感した。
- ・学校行事の活動形態を工夫することで、学校全体で一つの目標に向かって協働できる場面が増え、学年の垣根を越えて、互いを認め合おうとする雰囲気が生まれるとともに、主体的に行動しようとする姿が見られた。
- ・各行事の後で、生徒が書いた振り返りを掲示したり、行事で活躍した生徒に直接渡したりすることで、同じく認め合いの雰囲気が高まるとともに、生徒が自信をもって自己表現ができる場面が増えた。振り返りの内容においても、ただ単に自己の評価をするだけでなく、頑張っていた友だちや、各行事で活躍した生徒に向けたメッセージを書くことで、相手意識をもち、積極的に頑張りを認めようとするものが増えた。
- ・人権集会では、生徒会が主となって企画・運営したり、学年縦割りのグループ活動を行ったりすることが、生徒たちの課題を積極的に共有し、主体的に行動できる力につながった。

### 【課題】

- ・これまで取り組んできた月目標の活動に今後も引き続き取り組んでいくとともに、他学級の取組を見て感想を伝えるなど、様々な視点での振り返りができるよう工夫をしていきたい。
- ・今後も活動形態を工夫した学校行事を続け、その中で生徒が積極的に自己表現できる機会を作っていきたい。
- ・振り返り際には、活躍した生徒だけでなく、学級の生徒に向けてメッセージを書くなど、より生徒全体に行き渡るような形で実践していきたい。

## V おわりに

上記に示した通り、「授業づくり」「集団活動づくり」のそれぞれの研究仮説に基づいて実践してきた本校の取組は一定の成果が得られたものとする。学校評価の結果から、学校生活に意欲を持って過ごしている生徒の姿がうかがえた。特に「学級には何でも話せる雰囲気がある」の項目で肯定的回答が令和2年度7月の段階で90%を超えたことは、自分の意見や考えを伝え、他者と協働しながら課題の解決を図る経験を積み重ねてきた成果とらえ、今後の励みとしたい。また、アンケートQUの結果では、「勉強運動等で友人から認められている」「友人との付き合いは自分の成長にとって大切だ」の項目で研究期間を通して肯定的回答の数値が上昇してきていることは、自他を認める大切さを感じる生徒が多くなってきている側面を表しているのではないかと考えている。

しかしながら、現段階で見えている課題も多々ある。本校における研究はまだ実践の途中であり、これまでの取組を十分に検証し、次年度以降につなげていきたい。